

悠さん、久しぶりだね。元気してますか？
すっかり寒くなってきましたね。
今日、クローゼットの奥にしまっていたブーツを久しぶりに出したよ。
悠さんと別れたのは桜の咲き始めた頃だから、あれから半年くらい経つことになるね。

そういえば、あの頃勉強していた情報処理の資格、合格したのかな？
参考書を開いたと思ったらソファに寝転がる。
起きて、また参考書を開いたと思ったら、テレビを見始める。
そんな悠さんの姿が懐かしいです。

ごめん、こんなことを言うために手紙を書いたんじゃないかった。
ちゃんと、謝ろうと思って。

悠さん、ごめんね。
わたし一人で「好き」も「さよなら」も言ってしまって。
つき合う時も、別れる時も、やさしい悠さんはうなづくだけだったね。
今さらだけど、ごめんなさい。ほんとうに。

あの時話したように、悠さんのことが嫌いになったわけでも、
新たに好きな人ができたわけでもなんでもなかったの。

ただ、あの頃、せっかく念願だった美容師になれたのに、全然うまくいかなくて、
現実には夢を超えないんだって勝手に落ち込んで、それをすべて、悠さんのせいにして。
悠さんに時間を取られるせいだって言い訳にして。そして「さよなら」して。
ほんとうに子供だったと思います。

悠さんがいなくなった今も、やっぱり仕事はうまくいってないんだ。
だから、わたしはただ単に悠さんを失っただけ。

ソファに並んでわたしのグチを聞いてくれる人も、
ベッドの中でわたしの夢に耳を傾けてくれる人も、今はいません。

なんか暗い手紙になってしまったね。
「裕子のあかるい性格が好きだ」って昔言ってくれたのに。ごめん。
ここからは明るいお話。悠さんに感謝の気持ちを伝える。

悠さん、ありがとう。
わたしが美容師になれたのは悠さんのおかげ。
夢に見ていたようなわたしではないけど、いつか夢を超えてみせる。

悠さん、ありがとう。
うれしいことも、たのしいことも、かなしいことも、さびしいことも、
わたしは全部悠さんに教わったよ。

できれば、かなしいこと、さびしいことは知りたくなかったけど、もうそんなこと言ってもらえるような年じゃないよね。

ありがとう、悠さん。

「好き」も「さよなら」も全部受け止めてくれて。

ねえ、悠さん、あの頃に戻りたいとは言わないけど、

できたら、つき合う前の2人に戻れたらうれしいな。

たくさん話して、たまに会って、たまーにご飯を食べるような。そんな2人。

くっつくこともないけど、離れることもない2人。

よくわからなくなってきちゃったね。そろそろ終わりにします。

いつか気が向いたら、勉強の合間にでも、連絡もらえたらうれしいです。